

Vietnam-Japan Symposium on Mitigation and Adaptation of Climate-Change-Induced National Disasters

Hue University of Science, Vietnam

今年のICASビッグイベントの一つ、ベトナム-日本国際シンポジウムが2007年9月20~21日にベトナム・フエ市にて開催されました。日本からおおよそ30名の研究者・学生たちがベトナムへ渡り、ベトナムをはじめ諸外国の研究者たちとの交流を図りました。その時の様子をたっぷりお伝えします!!



ハノイ国家大学 Do Minh Duc 先生による司会のもとシンポジウムが始まりました。



フエ科学大学講堂の外観。ここで9月20日・21日の2日間に渡りシンポジウムが開催されました。

<シンポジウム5つのセッション>

Session1: Mechanisms and Processes of Natural Disasters

Session2: Role of Human and Social Sciences

Session3: Extreme Climate Events -Induced Natural Disaster

Session4: Remediation, Rehabilitation, and Aftercare of Damaged Sites

Session5: Mitigation and Adaptation Strategies Against Natural Disasters

基調講演もあわせて39名が、「気候変動に起因する自然災害の適応策」について発表しました。各発表の後には、質疑応答の時間が設けられ、活発な議論が繰り広げられました。



会場風景

ICAS にとってははじめての海外でのシンポジウム開催で、当日を迎えるまでに様々な問題に直面しましたが、ベトナム側の実行委員及びスタッフ・学生の皆様に大変助けられ、無事成功を収めることができました。また、日本からも茨城大学のみならず、東京大学・京都大学など各地からたくさんの方々に参加していただき、会場は大いに盛り上がりました。この場を借りて皆様に御礼申し上げます。

シンポジウム DATA

主催: 茨城大学 ICAS・フエ科学大学・ハノイ国家大学
開催日時: 2007年9月20日(木)・21日(金)
会場: フエ科学大学講堂(ベトナム・フエ市)
参加人数: 約140名(内日本からの参加約30名)



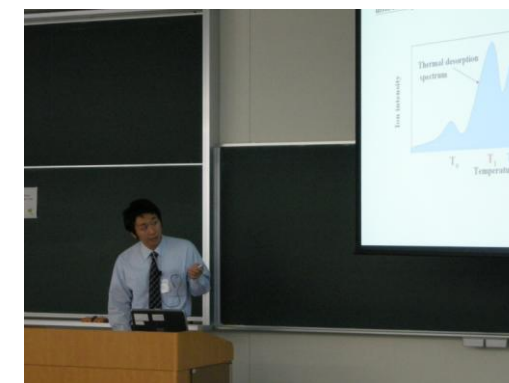
参加者による全体写真

The 3rd International Student Conference at Ibaraki University (ISCIU3) ~Toward Sustainability Science for Global Safety and Security~

2007年10月6~7日に、茨城大学学生主催の国際会議(ISCIU3)が水戸キャンパスにて開催されました。学内外、海外からたくさんの研究者が参加し、地球環境への対応と適応を焦点に熱い議論が行われました。その時の模様を、写真と実行委員メンバーの感想を中心に紹介します。

昨年の11月からスタートした一見無謀な企画(ISCIU3)でしたが、様々な方のご支援もあり、無事開催することができました。素直にうれしかったことは、このISCIU3を通じて本当に色々な方々と知り合えたことです。他学科・他学部の学生・先生方、また国内他大学から海外の学生まで。経験したことを書いていくと、とんでもない程、長文になってしまいそうなくらい大きく、意味のある経験ができました。学生のうちにこのような価値ある経験が積めたことは、自分の人生の中で他のものには変えがたいものになると思います。最後に、イランとブラジルから2名、自身の意志でこのISCIU3に参加してくれました。その2人と知り合い、2人のこと、2人の国のことを聞き、初めて「グローバル化」の意味に触れたような気がします。今まで、外国のことをイメージの中でしか考えていなかったことに気づかされました。「Sustainability」がテーマのISCIU3でしたが、それを有効な考えにするために、まずは地球上に広がる様々な世界のことを知ることに始めなければならないように思います。独りよがりの「Sustainability」はあり得ないと思います。

(実行委員長 鈴木崇之さん M2)



総勢約50名の学生、研究者による一人当たり約15分間のプレゼンテーション。

ISCIU3では自分とは異なる環境で生活する人たちと触れ合うことができました。それが自分にとって最も大きな経験です。国、県、世代が違えば考え方や生き方も違います。学術的に言えば、専門が変われば思想や視点も変わってきます。普段はどうしても自分のいる環境は居心地がよく思えてしまいます。それが時には世界観を制限する方に作用しているのかもしれませんが、今回ISCIU3で多くの人と知り合い、隔たりを取り払った時間を過ごしました。すると、これまで気づかなかったことはとても多く、その発見が刺激的なものに感じました。きっと、今後の生き方に強く反映されていくのだと思います。そして、今回築くことのできた人間関係もまた、ずっと続いていくのだと思います。こういったことをISCIU3に参加した人たちも感じていてくれたら、それほど嬉しいことはありません。

(実行委員 渡邊保貴さん M1)



国内外からの、延べ約130名の参加者によって、会場は大いに盛り上がりました。



実行委員と参加者の記念写真。みんなの笑顔が国際会議の成功の証。

その他の活動報告

International Symposium & Student Workshop on Ecological Service Functions for Sustainable Agriculture in Asia
-アジアにおける持続可能な農業に向けた生態系サービス-

2007年9月3~5日に農学部阿見キャンパスにて茨城大学・インドネシア3大学共催の国際シンポジウム及び学生ワークショップが開催されました。



2007年8月25~26日に中国・Vビン市東北農業大学にて日中共同シンポジウム「東北アジアにおける持続可能な地域開発」が開催されました。ICASからは中川教授、田村佳教授、長瀬龍弘、田村ICAS特任研究員らが参加し、中国の研究者との意見交換を行いました。



Environmental News

今年のノーベル平和賞にゴア元米副大統領と気候変動に関する政府間パネル(IPCC)が選ばれました。「和平」、「民主化」、「軍縮」など、これまでの授賞理由に加え、地球温暖化という「環境」問題も世界の安全保障にとって見逃せない項目であることを示した動きといえます。

今年に発表された IPCC 第4次報告書の作成に携わったのは世界で581人、そのうち日本人は30人でした。さらに、外部専門家などを含めるとその数は約4千人にのぼります。その中で ICAS 機関長の三村先生は、第2作業部会「評価と適応策」部門で16章「島嶼国」の統括執筆責任者として報告書の取りまとめを行いました。同様に、ICAS 特任教授の Hay 先生、Nunn 先生もこれまで執筆責任者などを務めています。こうした多数の関係者の協力に基づいて、IPCC が同賞に選考されました。

この受賞を契機に、気候変動問題の取組が一過性ではなく今後の国際社会への強力なメッセージとしてその機運が高まることを望みたいですね。



地球くんと一緒に温暖化と世界平和について考えよう!!

～ICAS に滞在中の外国人教員紹介～



John Edward Hay 教授
オークランド大学名誉教授
ICAS 滞在：10月～11月
「アジア・太平洋地域の途上国における適応策に関する研究・教育の担当及び ICAS 教育研究担当」



Patrick D. Nunn 教授
南太平洋大学教授
ICAS 滞在：10月
「太平洋地域の発展途上の島嶼国における適応策に関する研究担当及び地域特性を生かした適応策に関するセミナーの開催」



Iswandi Anas 教授
ボゴール農科大学教授
ICAS 滞在：9月～11月
「気候変動適応型土壌保全システムの開発と持続的な熱帯農業に関する教育及び研究担当」



Adrian Hyde 教授
シェフィールド大学教授
ICAS 滞在：10月～11月
「気候変動と地盤変状の複合災害の影響評価と適応策に関する研究及び教育担当」



Wuyunna 教授
大連民族学院生命科学学院教授
ICAS 滞在：9月
「中国モンゴル草原を対象とする気候変動影響評価と適応策の開発に関する共同研究」

サステナビリティ学連携研究機構 (IR3S)より発行されている学術誌「サステナ」、第5号が発行されました。第4号は茨大が編集を担当しました! 詳しくは ICAS 本部まで



Editor's note

急に寒くなりました。海外からたくさんの教授たちがやってきて、ICAS はとてもにぎやかです。さて今回の特大号はお楽しみいただけましたか。感想をどしどしお寄せください!!

by R.H

ベトナムー日本シンポジウム開催

9月20日(木)、9月21日(金)の2日間に渡り、ベトナム・フエ科学大学にて国際シンポジウムを開催しました。今回は拡大号として、シンポジウムの様子をたっぷりのご報告します。(2面に続く)

茨城大学・社会連携事業会講演会開催

10月2日(火)水戸常陽藝文センターにて京都大学佐和教授と ICAS 機関長三村信男教授による講演会「地球温暖化に関する国際的な動向と経済活動の将来」が行われました。学内外から約250名が参加し、地球温暖化の最新の知見の紹介と日本や各地方のあり方について議論しました。

茨城大学学生国際会議 (ISCIU3) 開催

茨城大学の学生が中心となって企画・運営する ISCIU3 が10月6日(土)、10月7日(日)の2日間に渡り、茨城大学水戸キャンパスにて開催されました。ICAS も共催として参加しました。(3面に続く)



ICAS 活動予定

第5回 ICAS サステナフォーラム開催!

日時：10月29日(月)15:00～17:30
場所：理学部インタビュースタジオ

講師：John E. Hay
Patrick D. Nunn
Iswandi Anas
Adrian F. L. Hyde
テーマ：地球変動と熱帯環境
-南太平洋の島国とインドネシアの気候変動、そのコミュニティ、農業への影響-

言語：英語(簡単な日本語への翻訳あり)

現在、ICAS に滞在中の、南太平洋地域とインドネシア、イギリスから来られた著名な4名の特任教授による講演会を開催します。特に Hay 教授と Nunn 教授は今年のノーベル平和賞を受与される IPCC の責任代表執筆者を務めた先生方です。乞うご期待!!

ICAS/IR3S Calendar

4月	新年度スタート	10月	10/2(tue)茨城大学・社会連携事業会講演会 ISCIU-3 10/6(sat).7(sun) 国際学生会議 in Mito IR3S 10/18(tue) 北九州シンポ(専門家会合) ~20(thu)「アジアの循環型社会の形成を目指して」 10/29(mon)第5回サステナフォーラム
5月	5/11(fri) 第2回 ICAS サステナフォーラム 5/14(mon) ICAS ゼミスタート IR3S 5/30(wed) 中国浙江大学シンポ ~6/2(sat) 「循環経済と持続可能な社会」	11月	11/18(sun) 阿見町3大学交流事業
6月	6/9(sat)「サステナビリティ学入門」第1日 6/23(sat)「サステナビリティ学入門」第2日	12月	12/18(tue) 教育国際シンポジウム in Mito 12/21(fri) ICAS 第1部門ワークショップ 12/21(fri)~23(sun)杉浦淳吉准教授集中講義 IR3S 温暖化 FP シンポジウム
7月	IR3S 初旬 インド Office 開設(WS 開催) 7/6(fri)小宮山東大総長講演会 7/7(sat)「サステナビリティ学入門」第3日 7/13(fri)第3回 ICAS サステナフォーラム IR3S 7/17(tue).18(wed) IR3S 国内ワークショップ	1月	
8月	8/7(tue).8(wed)第4回 ICAS サステナフォーラム	2月	IR3S 2/2 公開シンポジウム IR3S 温暖化国際シンポジウム in Hawaii
9月	9/3(mon)~5(wed) 農学部国際シンポジウム IR3S 9/18(tue) エネルギー持続性フォーラム ~19(wed) with IARU 9/20(thu) ベトナム・日本国際シンポジウム ~22(sat) in Vietnam	3月	地域サステナシンポジウム in Mito

*網掛けは継続される企画です
*予定は変更になる場合があります

ICAS の予定に関するお問い合わせは ICAS 本部まで
icas@mx.ibaraki.ac.jp

ICAS on Media

ここでは ICAS のメディアでの活動を紹介します
9月26日(水)放送 NHK「クローズアップ現代」
～地球温暖化 身近に迫る異変～
スタジオゲストとして ICAS 機関長三村信男先生が出演されました。

茨城新聞講評連載中!!

毎週火曜日「くらし」欄にて「茨城大学発～持続可能な世界へ～」をテーマに連載中です。図書館・ICAS 本部で閲覧可能ですので是非注目してみてください!!